

第2回文化会館指定管理者選考委員会 議事概要

日 時：令和3年10月13日（水）

9：30～14：00

場 所：横須賀市役所正庁

出席者：佐藤委員長、高木委員、石川委員、竹田委員、芳賀委員

欠席者：なし

事務局：文化振興課 坂本主査、沼尻

傍聴者：17名

-
- ・ 定足数については、委員5名全員が出席し定足数を満たしていることを確認した。

1 選考の進め方について

- ・ 事務局から選考の進め方について説明した。

2 プレゼンテーション及び質疑応答について

- ・ 「よこすか文化パートナーズ」、「カルチャーコミュニティよこすか」が、申請順にプレゼンテーションを実施し、各委員が質疑応答を実施した。

(1) よこすか文化パートナーズ

(委 員) 人員体制について、今回新たに「地域交流担当者」を設置するとあるが、両館の立地的に深田台や衣笠の町内会との関わりを強化するということか。また、そういった要望を受けての提案であるか。

(回 答) 現在も、近隣町内会はもちろん近隣商店会との関わりを重視しているが、長年運営している中での課題として、担当窓口を設置してしっかり対応していくことが必要という思いがあるため、担当者を設置することとした。また、文化団体との関わりも強化したいと考えており、こ

のポストがその役割を担えればと考えている。

要望については、現時点でどこかから具体的に出ているわけではないが、文化事業に長く関わる中で、未来の文化の担い手育成という観点から今まで以上に取り組む姿勢を出していきたいと思っている。

(委員) キャッシュレス決済の導入については、どのような計画をしているか。

(回答) キャッシュレス決済を利用したい方がすべて利用できるように、あらゆるベンダーを網羅した体制を構築する。また、個人情報、決済情報保護のため、会館とベンダーの間に管理事業者を入れることでセキュリティを強化する計画である。

(委員) 法令遵守について、コンプライアンスの本来の意味を理解していないと、ルールに縛られた運営になってしまいがちだが、その部分についてどう考えているか。

また、従業員満足度について、働きやすい職場環境づくりはサービスを向上させるために不可欠であるが、そのためにどのような取り組みを考えているか。

(回答) 当事業体は「コンプライアンスの徹底」と「従業員満足度」を重要視しており、コンプライアンスについては「法令遵守」は当然のことで、「世の中の社会規範に即してどう考えるか」という観点から、会館側の都合を押し付けず、利用者に寄り添うコミュニケーション能力を向上させる取り組みを続けている。

また、従業員満足については働きやすく能力を発揮しやすい環境を作ることで、人材を活かすことができ、利用者サービスの向上を図ることができると考えている。

現在の運営においても、そのための研修を充実させてお

り、コミュニケーションやハラスメントに係る研修を頻繁に実施し、今後も継続していく予定である。

(委員) 利用手続きのオンライン化、キャッシュレス化、駐車場の電子決済導入等を提案しているが、その導入スケジュールや経費についてはどのように考えているか。

(回答) 導入時期は第5期が始まってすぐ導入することを考えており、現在もその準備を事業者と進めているところである。

費用については、駐車場については機器の入替えが伴うため初期費用がある程度かかるが、利用手続きのオンライン化等については、予約システムの入替えがないため、ハード面而言えば操作端末の導入程度と考えている。その他費用としてベンダーとの契約において利用手数料が発生することになるが、サービス導入による利便性向上に伴う増収によって賄う想定である。

(委員) 地域交流担当者について、周辺の博物館や平和中央公園、またソフト面で言うと生涯学習課、文化振興課との連携が必要になってくると思うが、会館としてどのように連携していくか。

また、文化会館、はまゆう会館の両館の連携体制についてどのように連携していくか。

(回答) 基本的には会館全体で取り組むべきことであるが、館長、副館長そして地域交流担当者を中心に連携を強めていければと考えている。

また、両館の連携については、人員体制として館長、副館長、事業担当者が兼務となっており、統一的に物事を進めることができる体制となっている。地域交流担当者も両地域を横断的な目線で活動させていきたいと考えている。

(委員) 今回の提案の中で、特に強調したい部分、新たなチャレンジと捉えている部分、他の事業者と差別化が図れる部分を教えてほしい。

(回答) 文化振興における課題のひとつとして「文化団体の高齢化」ということを認識しているが、それを解消するために幅広い世代に利用してもらえる会館を目指したい。その施策として e-sports を軸に若い世代にも会館を知ってもらい利用してもらおうことを考えている。

(委員) 指定管理料の削減について、直営修繕と予防保全による管理経費削減ということを提案しているが、予防保全について過去の実績等を教えてほしい。

(回答) 直営修繕と予防保全は設備管理を専門的に扱ってきた代表企業の強みである。文化会館を管理してきた中での代表事例としては、例えば屋上防水が挙げられる。建物の築年数から考えると、本来であれば大規模修繕で実施しなければならないが、予算的にも期間的にもなかなか着手しづらい。その部分を日ごろのメンテナンスの範疇で少しずつ補修を行い、延命化を実現している。

(委員) サービス向上について Wi-Fi 環境の整備を挙げていたが、有料サービスとのことで今後無料化する予定はあるか。

(回答) 現在は、ポケット Wi-Fi を有料で貸し出す方式をとっているが、次期は有線によるインターネット環境の整備を予定している。サービス開始当初は初期費用回収の側面から有料での提供を考えているが、軌道に乗れば無料化を視野に運用していきたいと考えている。

(委員) 両館の周年事業については地域を巻き込んで実施することを想定しているのか。

(回答) 文化会館は開館からの長い歴史を活かして「過去」をコンセプトにした企画を計画しており、地域との繋がり、過去に携わった方々との繋がりを重要視している。はまゆう会館は通常開催している「オープンデー」を周年事業として開催規模を拡大し、より地域との連携を強めていきたいと考えている。

(2) カルチャーコミュニティよこすか

(委員) 強力な地域ネットワーク推進体制について、具体的にはどう推進していくのか。

(回答) 代表企業が企画運営の中心となり、企画ごとに協力してもらい事業者と連携してより充実した運営を実現する。既に事業者への協力依頼は進めており、次期指定管理者に選ばれた時点で実行できる体制を整えている。

(委員) 文化会館の市民ギャラリーの床の改修について、ダンス用の床にするとあるが、逆にダンス利用以外の従来の利用者がどう考えるかという懸念もある。そのあたりを含め費用対効果はどう考えているか。

(回答) 費用面は、自主事業扱いで予算化している。昨今のダンス需要を考慮したうえで計画しているが、十分な成果が見込まれると考えている。

(委員) 働きやすい職場環境づくりはサービスを向上させるために不可欠であるが、そのためにどのような取り組みを考えているか。

(回 答) 働きやすい環境づくりは重要と考える。そのためにマルチスタッフ制を採りながらも、まずは施設管理、舞台運営といった得意分野で能力を発揮できる環境を整備する。同時にモチベーションを高く維持するため、自分の役割を明確にし、そのうえで必要な資格取得については事業体が支援していく。このように人材育成を重視して働きやすい環境を整えていくことを考えている。

(委 員) 文化の担い手の高齢化という観点から、文化会館の立地によるアクセスの問題について何かできることはあるか。

(回 答) 構成企業の親会社が交通事業者であるが、バスを通すとすると様々な要因が関連するので難しいのは事実である。他の指定管理施設での事例であるが、関連企業であるタクシー会社の協力の下でタクシーを1日貸し切り、駅からの送迎サービスを実施したことがあるので、ニーズがあれば自主事業として検討することは可能と考える。

(委 員) 強力な地域ネットワーク推進体制について、両企業のほかに舞台運営を担当する企業が「パートナー企業」という扱いで参画しているが、「強力な」推進体制を謳うのであれば3社で共同事業体を組んでもよかったのではいかと思うが、どう考えているか。

(回 答) 舞台運営を担当する企業は芸術劇場の舞台を業務委託として受託しているので足並みを揃えたが、人員体制としては常勤スタッフを配置して強固な体制を整えていると考えている。

(委 員) 人員体制について、マルチスタッフ制を採用しており、警備専門のスタッフが不在であるが、受付や舞台運営が

忙しいときこそ警備も強化する必要があると思われる。
その面で体制に不安はないか。

(回答) 催事ごとの繁忙度の傾向を踏まえ、必要であれば警備を委託することを考えている。また、代表企業本社や関連企業からの応援体制の構築も検討する。

(委員) 今回の提案の中で、特に強調したい部分、仕様書以上の提案内容となっている部分を教えてほしい。

(回答) 一番重要視しているのは「市民とともに舞台を作っていく」というコンセプトである。市民と一緒に舞台を作っていく中で、地域と連携した事業展開をしていく。それにより文化の裾野を広げることが使命と考えている。

(委員) 文化会館・はまゆう会館の魅力は何だと捉えているか。

(回答) 両館は「市民が身近に接することができる発表の場」であり、普段、文化活動をしている方々が成果を発表するための機会をスタッフたちが応援・協力して、一緒に舞台を作り上げていくことで横須賀の芸術文化振興の舞台となっていく。それができる場所であると考えている。

(委員) 地域貢献について、他の指定管理施設の市内事業者への発注率が56%ということで、もっと上向くとよいと思うが、どう考えているか。

(回答) 市内企業とのネットワークを活かし、できる限り市内発注率を高めたいと考えている。

(委員) 受託した際のスタッフの確保についてはどう考えているか。

(回答) 現行スタッフの中で一緒に働ける方は引き続き働けるような調整をしたいと考えている。館長、副館長について

は、プロパー職員の中から管理監督経験者を配置する予定である。

3 意見交換

プレゼンテーション終了後、申請団体の提案内容について意見交換を行った。(団体のノウハウや財務状況などセンシティブな内容を含むため非公開で実施した。)

以上